

令和8年度 第1回 静岡県立天竜高等学校春野校舎 学校運営協議会議事録

1 日時 令和8年6月4日（木） 午後1時30分から3時30分

2 場所 静岡県立天竜高等学校春野校舎 応接室

3 委員 佐々木 徹（浜松市春野支所長）
北野 昌宏（春野中学校校長）
田中 敏司（春野中学校区青少年健全育成会会長）
中田 宗男（同窓会会長）
松本 常志（学校後援会会長）
中村 剛（前PTA会長）※ご欠席

4 内容

- (1) 校長あいさつ・自己紹介
- (2) 会長・副会長の選出
- (3) 議題
 - ア 令和8年度「学校経営計画」
 - イ 春野校舎の生徒支援・教育相談体制
 - ウ 地域探究活動報告
- (4) 学校の様子について（6時限目の1～3年生の全教室について授業参観）
- (5) 学校運営に関する意見交換

5 議事録（要点）

- (1) 校長あいさつ・自己紹介
校長より学校運営協議会の趣旨を説明。各委員より自己紹介を行った。
- (2) 会長・副会長の選出
会長に松本後援会長、副会長に中田同窓会長を推薦。全員異議なく承認された。
- (3) 議題
 - ア 令和8年度「学校経営計画」
学校経営計画および目指す学校像について説明し、承認を得た。
 - イ 春野校舎の生徒支援・教育相談体制
 - ウ 地域探究活動報告
春野校舎の地域探究活動のこれまでとこれからについて報告した。
- (4) 学校の様子について（6時限目授業参観）
6限の授業（1～3年生の全教室）を参観した。

(5) 学校運営に関する意見交換

○学習指導と生徒支援について

- ・本校の一人ひとりに寄り添った教員側の丁寧な指導がされていること、生徒は多様な学習コースを選択できること、さらには茶道等のエネルギー溢れる授業がいくつもあることが高く評価できる。
- ・基礎学力の課題として、以前この学校に補助に入った経験から、小中学校段階の数学の理解が不足している生徒が一部見受けられた。新しいことへの吸収力はあるため、基礎をいかに定着させるかが一つの課題である。
- ・個別支援の重要性として、中学校時代におとなしく、声を出すことの苦手だった生徒が、本校での指導や生活を通じて挨拶ができるようになるなど、「春野マジック」とも呼ばれる生徒の変容について高く評価できる。

○通学環境と「バス問題」

- ・遠方（掛川市、袋井市、森町等）から長距離通学する生徒が多く、交通手段が大きな負担になっている点について、強い懸念が示され、それ自体がストレスとなり、学校は好きだが、バス通学が原因で登校意欲が削がれるケースがあるのではないかとということが指摘された。
- ・バスが唯一の通学手段であり、これがなくなると通学できなくなるため、路線の維持は学校存続に関わる死活問題である。どのように人を呼ぶのか、どのように通わせるのか、ということを含めて考える必要がある。

○学校の魅力化と定員確保

- ・生徒数の減少（本年度新入生 19 名、全校 55 名）を受け、学校の存続に対する危機感が共有された。この中で、春野校舎のような教育は私学では難しく、公立校として絶対に残すべき役割があるため、その特色や「楽しい学校であること」を中学校の先生や保護者へこれまで以上に積極的に PR していきたい。
- ・居住環境の整備として、県外や遠方から「この学校で学びたい」と希望する生徒のために、空き家の活用等、安心して住める場所を見つけることも一手ではないのか。

○地域連携と外部人材の活用

- ・学習支援員などの学び直しを支える外部講師が不足している現状に対し、退職した教員等の地域人材を紹介・活用し、組織的に支援していくことも必要ではないか。

6 その他

第 2 回は 10 月または 11 月に開催する予定である。